

令和4年度 第2回 八代市立図書館協議会 会議録

日時 令和5年3月23日(木)午後2時
場所 八代市立図書館 大集会室
出席委員 久保委員、宮嶋委員、桑原(直)委員、徳田委員、橋野委員、桐委員、前山委員
欠席委員 森下委員、市村委員、桑原(伸)委員
事務局 北岡教育長、高崎課長、村上課長補佐
野間口館長、吉野統括責任者、岩榮せんちょう分館長、木場かがみ分館長
公開状況 公開
傍聴者 0名

- 1, 開会
- 2, 教育長挨拶
- 3, 会長挨拶
- 4, 議事

(1) 図書館運営方針に伴う令和4年度の取組について

(事務局)

運営方針にある「1, 郷土を拓く人を育む図書館」「2, 市民のニーズに応える図書館」「3, 八代の文化を支える図書館」「4, 市民協働による図書館」に沿って運営した。

「1, 郷土を拓く人を育む図書館」の取り組みについて

「第6回 八代市立図書館を使った調べる学習コンクール」を実施。7作品の応募があり、最優秀賞2名、優秀賞2名、佳作3名となり、特に優秀な作品については「全国図書館を使った調べる学習コンクール」に出展し、2作品が佳作受賞した。令和5年2月26日に表彰式を行った。また、夏休みにはこども図書館講座「調べる学習おたすけ講座」を全館で3回開催し、調べる学習の目的や課題解決、集めた情報のまとめ方を伝授した。

「図書館の便利な使い方」講座を実施した。全館で開催し、普段見ることの出来ない閉架書庫や移動図書館車の見学も行った。この講座では、令和4年度に新規導入した「熊本日日新聞」「レファコレ 児童ヤングアダルトサービス」など商用データベースの案内を行い、電子図書館についても、実際にパソコンを使いながら電子図書の貸出や予約方法を紹介した。

特に、令和4年度に開始した児童書の読み放題サービスや雑誌の読み放題サービスについて案内した。

「子ども図書館ツアー」は、春のこども読書週間に開催し、13名の参加があった。子ども達を探検隊とし、図書館を探検しながら図書館を知るというイベント。クイズを交えながら図書館のルールを説明、本の検索、貸出を行い図書館や読書への関心を高めた。

「2, 市民のサービスに応える図書館」の取り組みについて

「読書支援サービス」では、点字図書、録音図書の貸出及び郵送サービスを実施した。また、電子図書館でもデイジー図書(録音図書)の貸出を行った。その他、ピクトグラムを多用した「やさしい利用案内」を作成し、障害のある方や母語が外国語の方にも分かりやすい利用案内

を行っている。また、定期的に読書支援サービスの特別展示を開催。令和4年度かがみ図書館講座では「ろうあ者と手話&ミニミニ手話教室」を開催。実際に視覚障害をお持ちの方をお招きし、お話をうかがった。年に一度開催しているバリアフリー上映会では「おらおらでひとりいぐも」を開催し、19名の参加があった。

英語によるおはなし会は、新型コロナウイルス感染症対策で中止していたが、令和4年度に再開した。現在は、本館とせんちょう分館で月に1回、を行っている。関連して、令和4年11月には国際課と協力し、英語ブックフェアを開催した。

「3. 八代の文化を支える図書館」の取り組みについて

各館ごとの特色あるサービスについて

本館では、指定管者制度導入後、開館時間が20時まで延長されたが、17時以降の利用に伸び悩んでいた。そこで、秋の夜長に朗読会を夜に行い、17時以降の利用促進を図った。参加者は25名だった。

せんちょう分館では、かがくあそび講座を行い、科学絵本の読み聞かせや工作を行った。

かがみ分館では、かがみマンガweekを秋の読書週間に開催。「私の推しマンガ」「心に残ったマンガ」の募集を行い、作品を展示した。また、合志マンガミュージアム館長ご協力の元、熊本日日新聞に連載していた「橋本博のマンガ漫遊記」記事と関連本の展示や「キャラクターの消しゴムはんこをつくろう」を開催した。

「4. 市民協働による図書館」の取り組みについて

学校との連携では「出張出前講座」を実施。小学校五年生の国語「作家で広げるわたしたちの読書」の学習の中で、「作家の魅力を伝える紹介カードづくり」を行った。キャッチコピーの作り方やポップの作り方を伝え、完成した「作家の紹介カード」は学校図書館で活用した。

春の読書週間に「春の図書館まつり」、秋の読書週間に「秋の図書館まつり」、令和5年2月には、「としょかんマルシェ」を開催した。「としょかんマルシェ」では、「第6回 八代市立図書館を使った調べる学習コンクール」の表彰式や出張プラネタリウム、読み聞かせ、工作教室のほか、古本市やコーヒーショップ、道の駅坂本「さかもと館」、キッチンカーも出店し、約3,000名の参加があった。

(委員)

移動図書館の利用状況を聞きたい。

(事務局)

令和3年度からイオンモールとゆめタウンが巡回場所に追加されたこともあり、昨年度より利用は増えている。また、郡築の公民館へ巡回場所を変更したところ、これまで一人も利用者がいなかったが、変更後は3人～4人ほど毎回利用がある。

(委員)

何にしてもそうだが、費用対効果がないといけないと思っている。普段から多少無理してでも移動図書館を利用するようにしているが、あまり利用がなく殺風景に感じる。なにかいい工夫はないものだろうか。

(委員)

多いところはどのくらいの利用があるのだろうか。

(事務局)

5人前後、常連の方の利用があるところもあれば、0人のところもある。場所によって差があるように感じている。

(委員)

レファレンスサービスについて、どのような施策を進めていく予定か。

(事務局)

総合窓口の開設を予定しており、令和5年4月からの開始を考えている。本の案内だけでなく施設の案内にも対応する。担当スタッフは声を掛けやすいように腕章をつける予定である。

(委員)

初歩的な質問で申し訳ないが「レファレンス」とは何か。

(事務局)

レファレンスは、利用者が調べたい疑問に対し資料を使って調査の補助をすること。図書館資料だけで対応できない場合、他の関係施設を紹介する他、図書館の利用案内など様々な疑問に対応する。

(委員)

今の時代を考えると、AI やコンピュータを使ったインフォメーションなど、そういったものを取り入れる予定はあるだろうか。

(事務局)

現在のところ予定はない。ただ、レファレンスについては電話やメールでも受け付け、回答もしている。

(2) 令和5年度事業計画(案)について

(事務局)

①郷土を拓く人を育む図書館

・課題解決に取り組む市民の読書活動の推進

図書館サービスやレファレンスサービス(調査・研究のための資料探しや、必要な情報の探し方をお知らせし、調べ物をお手伝いするサービス)を必要とする利用者へのサービスを向上するため総合窓口を設置する。この窓口は、現在貸出返却を行っているカウンターに設置予定。

・情報化社会の進展に合った情報提供の充実

電子図書館では児童生徒の読書活動の普及のため、アクセス回数に制限のない児童書の追加購入を行う。小学生に人気の高い学習漫画や調べる学習に役立つ図書を購入する。また、レファレンス室に夕葉文庫、上田文庫、坂田文庫を集めた郷土文庫コーナーを設置し、閲覧席を設ける。図書館の便利な使い方講座を定期的に行い、図書館サービスの周知を図る。

・子どもの読書活動の推進

ブックスタート事業、定期的なおはなし会、図書館講座を継続するとともに、学校教育科目のフォロー体制を敷いた、出前講座や団体貸出配本を実施する。また、「第7回 八代市立

図書館を使った調べる学習コンクール」を開催し、子どもたちが自ら学び考え、課題を解決する力や生きる力を育む。また、八代市立図書館を使った調べる学習コンクールの認知度を上げるため、教育関係機関と連携を深める。

②市民のニーズに応える図書館

・ユニバーサルデザインの視点を踏まえた環境整備

令和3年度から実施している読書支援サービスの普及に努める。視覚障がい等により活字での読書が不自由な利用者に対して、アクセシブルな書籍の収集及び提供を継続して行う。また、障がい者サービス研修を定期的に行い、読書支援能力の向上に努める。

・外国語資料の充実

英語でのおはなし会やイベントを継続して行うとともに、外国語資料の収集及び提供を継続して行う。また、英語以外の外国語資料の拡充を行う。

・移動図書館の充実

移動図書館の周知を行うとともに、利用が少ないステーションについては、巡回場所の見直しを検討する。また、図書館の情報をチラシで配布するなど、図書館に来館できない方々への広報に力を入れる。

・定住自立圏協定による広域連携サービスの実施

八火図書館（氷川町）、芦北町立図書館と連携し、図書館資料の共有を行うことで、図書館資料の有効活用、新規利用者の拡充、利用者の利便性の向上を図っていく。

・図書館の施設整備

IC バーコード、IC ゲート等の IC 機器による図書の管理及び自動貸出機での貸出を令和5年4月1日より開始する。

・指定管理者による運営

連携を図りながら、より高度で効率的な図書館サービスの提供を行っていく。

③八代の文化を支える図書館

・文化創造機会の提供

プログラミング講座「ロボットこくりをうごかしてみよう！」を定期的で開催する。実際にプログラミングを行い、ロボットを動かすことで子どもたちの文化創造を育むきっかけ作りとなるよう努める。今後も積極的に地元企業や団体と連携を行う。

・各館ごとの特色あるサービス提供

教育機関、各種施設、市民団体等と連携した展示コーナーやイベントを積極的に行い、郷土八代の魅力を発信する。また、定期的に行っている「図書館講座」事業を通して、市民の文化創造の機会を提供に努める。

④市民協働による図書館

・学校との連携強化、協働による事業の充実

教育機関や施設、地域の団体との連携を行い、展示やおはなし会等のイベントを開催する。また、学校教育科目のフォロー体制を敷いた出前講座や団体貸出の配本を行う。

- ・地域施設・ボランティアとの連携・協働による読書推進
読書グループ連絡会を開催し、ボランティアと図書館の連携を強化する。
- ・自主事業への市民参加
子ども読書週間に合わせ「春の図書館まつり」、秋の読書週間に「秋の図書館まつり」を開催する。また、令和6年2月に「としょかんマルシェ」を開催し、図書館の利用促進に繋げる。
- ・図書館運営への市民参加
市民の方々と有識者の意見を図書館運営に反映するため、図書館協議会を適宜開催し、透明性の確保及び図書館サービスの向上を図っていく。また、利用者アンケート調査にて、広く意見を求め図書館運営に反映させる。

(委員)

学習漫画の件について。小学館の人気漫画シリーズがリニューアルするそうなので、所蔵してはどうだろうか。

(事務局)

小学館の学習漫画は、紙媒体でも非常に人気があり、すでに所蔵している。電子図書館の児童書の読み放題サービスでも学習漫画を追加する予定である。

(委員)

「としょかんマルシェ」について。入り口近くに、松本零士の追悼展示などもあり時事を取り入れていてとてもよかった。参加者もとても多かったと聞く。来年度もあると聞きとても楽しみ。

(委員)

教育機関や施設、地域の団体との連携を行い、展示やおはなし会等のイベントを開催する、とあるが、具体的にはどのように取り組まれるか考えがあればお聞きしたい。

(事務局)

健康推進課とは毎年連携してパネルや関連図書の展示、スタンプラリー等も行っている。また国際課と連携して英語のブックフェアを行い、八代商工会議所主催の「やつしろお雛祭り」では関連の展示やスタンプラリーの会場としても参加した。

(委員)

教育機関との連携ではなにかお考えでしょうか。

(事務局)

毎年、読書感想画の展示や教科書展示を行っている。また、調べる学習コンクールを毎年開催し、その制作過程や作品の展示を行っている。

(委員)

代陽幼稚園では、図書館（本館）に近いこともあり、毎月利用させてもらっている。図書館に通う中で、図書館の展示というのはすごく変わったと感じる。入り口に入ったところに、季節や時事に合ったテーマを取り扱った展示があり、工夫している。また、園児を連れて来館する際は、時間は掛かるが園児本人に自動貸出機を使わせ、借りるようにしているが、その際もスタッフが温かく見守ってくれていて有難い。

(事務局)

展示については、スタッフたちが自主的に行っている。当日の新聞記事を使って関連図書を集めるなど、素早く反応し展示に活かしている。

(委員)

去年の12月25日に渡辺京二さんが亡くなられたときもすぐに展示コーナーができていて驚いた。あの対応はとてもよかったと思う。

(委員)

図書館というよりは行政だろうかと思うが、高齢者施設などに絵本の読み聞かせなどはされないのだろうか。

(事務局)

まったく存じ上げないことだったので、素晴らしいご意見をいただいた。現在、高齢者施設との関わりは、移動図書館の巡回だけであった。

(委員)

知り合いが、高齢者施設に勤めている。聞くところによると、高齢者の方々は、紙芝居を好まれているようだ。そういった点でも（読み聞かせなど）できたらいいのかなと思った。

(事務局)

紙芝居については、高齢者向けの紙芝居なども出版されており、高齢者施設の方がよく借りていかれる。団体貸出で要望のあった本を移動図書館車で届けているが、読み聞かせはしたことがなかったので、図書館として試してみたいと思う。

(委員)

図書館は本を貸し出すだけが仕事ではないと思う。やはり一歩踏み込んで、（高齢者施設の）読み聞かせ等してもらいたいし、出来ないのであればボランティアを募集するなどしてほしい。

(事務局)

高齢者施設等へ出張おはなし会の案内をしたいと思う。高齢者や障がい者への読書支援サービスとして、現在、音声朗読ボランティアの会様にはデイジー図書の寄贈の他、視覚障害をお持ちの方へバリアフリー上映会や、その他の図書館のイベントの案内をしてもらっている。

(委員)

ブックスタートとはなにか

(事務局)

7カ月健診時に、親子へ読み聞かせの素晴らしさをお伝えするために、赤ちゃん向けの絵本をプレゼントする事業で、案内用のリーフレットなどもお渡ししている。

(委員)

様々な方を対象として、色々な事をされているのは素晴らしいと思う。その中で、外国語資料を収集するというのは、広く多くの人に利用してもらう機会を増やす点からも良いと思う。

(委員)

英語以外の外国語の資料を収集するとあるが、具体的にどんな外国語を収集するか。

(事務局)

令和5年度には、中国語と韓国語を検討している。また、八代市にはベトナム人の方が多いので、ベトナム語の本も増やしたいが、残念ながら購入が難しい状況である。

(委員)

読書グループ連絡会について、年に何回、いつ開催するのでしょうか。

(事務局)

年一回開催し、令和5年度は6月に開催予定。内容としては、研修や活動報告、図書館からの案内等を行い情報共有を行う。また、これからボランティアを始めたいという方へのフォローアップも行っている。

5. 報告事項

(1) ICタグ関連システムについて

(事務局)

システム導入の経過について。令和4年9月に補正予算が通り、10月に機器の導入におけるシステムリース及び機器保守契約の締結を行った。補正予算は、年度内に消化しなくてはならないため、購入分の105,000枚のバーコード型ICタグの張替えのスケジュールはタイトなものとなったが、結果として2月末に作業が終了した。また、2月22日にICタグ管理システム関連機器を導入。3月末には、ICタグによる蔵書点検が始まり、ここで登録情報の投入がすべて完了する予定。令和5年度4月にはIC関連システムが稼働する予定となっている。

ICタグの効果としては、複数冊をいっぺんに貸出登録できることから、図書貸出の待ち時間の短縮やプライバシー保護の強化、図書館業務の効率化及びレファレンスの強化やコロナ感染症対策があげられる。また、これまで協議会の議題にもたびたび上がっていた不明本の解消にもつながると考えている。

(2) 館内飲食アンケートについて

(事務局)

前回の利用者アンケート(6月～8月)にて、飲食の緩和についていくつかの意見が出たことから、図書館マルシェで実験的にキッチンカーなどを呼び、利用者のニーズを把握しサービスの向上に役立てるため、館内飲食に内容を絞ったアンケートを実施した。飲食の緩和が意見として出てきた背景には、県内図書館建て替えに伴うカフェの導入などがあると思われる。特に宇城市立図書館については話題性も大きく、八代市にも非常に多くの意見が寄せられた。

結果については、ポイントを絞ってお話したい。

現在、八代市立図書館では蓋の付いた飲み物の持ち込みが可能であるが、それを知らなかった人の割合は6割近くいることが分かった。では、知っていた人の中で、実際に飲み物を持ち込んだことがある人の割合はというと、約6割。残り4割もの人は、持ち込んだことがない。要望の多い、コーヒーについて、匂いが気になるかという問いについては、9割近い人が気にならないと回答している。また、館内に飲食できるスペースがあれば利用したいかという質問に対し、同じく9割以上の方がスペースを望んでいると分かった。飲み物や軽食の販売についても8割近い人が希望しており、販売があれば(図書館の)滞在時間が増えるとの回答が9割

以上あった。

ご意見ご要望の中でも、飲食スペースや販売を求める声は多く、施設として、親子連れや子どもが気兼ねなく利用できるスペースや、洋式のトイレを求める声も多かった。

飲食の提供については、様々なご意見があると思うが、出店業者としても（図書館に出店して）売り上げの見込みがあるのかという問題もある。このため、例えば毎月第2土曜日にコーヒーの出張販売をしてもらうなど、試験的な取り組みから始めていけたらと思っている。

（委員）

若い世代にとって子どもが安心して本に触れる環境がある宇城市の図書館は、とても魅力的。なので、子どもスペースというのはしっかりとってもらえれば、若い世代がもっと図書館に通うようになるのではないかと思うので、これからに期待している。

（委員）

コーヒーなど試験的な取り組みについて。やってみないと分からないところはあると思うが、週に一回だけとか二週間に一回だけとかだと、サービスを受ける側にとって（いつ出店しているか）頭に入らないのではとの心配がある。そのあたり、やり方は工夫してみてはどうだろうか。

（委員）

これまでのご意見があった事その通りだと思う。現在の八代市立図書館は敷居が高過ぎる。いかに来館者を増やすか。これが一番だと思う。

（事務局）

こちらとしても啓発の方が不足していると感じている。そのため、まずはICタグ化やレファレンスについてもPRして行かねばと思っている。また、子どものスペースについては旧館長室を、利用できることを知らない利用者が多いのだと思われる。そういったサービスについても広く広報していきたい。

（委員）

広報については、図書館での取り組みが市民の目に届くように、市報やスマホからも確認できるよう工夫してもらえたらと思う。

（事務局）

広報という面では、やはり市報の力は大きいと感じている。昨年、市報にて図書館の特集してもらったが、その後、電子図書館の申込がぐっと増えた。図書館としても、ホームページやSNS等で情報を発信しているが、これはもともと図書館に興味のある人しか見ない。図書館に興味がない人にも情報を届けるのであれば、市報が一番かと思っている。

（委員）

様々な取り組みをしてもらっていて有難いと思う。特に便利に思うのが、図書ネット予約。ネット予約の利点は来館したら目当ての本をすぐに借りられること。滞在時間自体は短くなるがその分、短いサイクルで本を借りられる。なので、もっともっとアピールしてもらえたいと思う。

（事務局）

ネット予約については、今後も周知を図りたい。

6, その他

(1) 八代市立図書館運営方針について

(2) 八代市子ども読書活動推進計画【第二次】について

(事務局)

八代市立図書館運営方針と八代市子ども読書活動計画【第二次】については、併せて説明をする。これは向こう5年の計画となっており、来年度令和5年度が最終年度となるため、次年度に向けて策定を行っていく。八代市立図書館運営方針の策定に当たっては、この図書館協議会で議論していただきたいと考えている。また、八代市子ども読書活動計画については次に第三次を策定するが、策定委員会の設置をさせていただき、この委員会の中で議論を深めて図書館協議会の方でも協議していただきたい。委員会のメンバーについては図書館協議会の委員から選任したいと考えている。

7, 閉会